

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ココトモレヅジ楓校		
○保護者評価実施期間	2026年2月1日		～ 2026年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	36人	(回答者数) 35人
○従業者評価実施期間	2026年2月1日		～ 2026年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6人	(回答者数) 6人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月21日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	身体からアプローチする専門的支援を取り入れていません。	活動プログラムにブレインジム(ペース・レイジーエイト)・原始反射の統合・療育整体を取り入れて、専門的支援を実施しています	学校を休む選択をしているお子さんと保護者様に午前に来所していただき、施術をして血流改善や神経発達を促していく計画を立てていきます。
2	保護者支援に力を入れています。	ペアレントトレーニング/OB会・家族イベント・日常での実践を保護者様に提案しています。	平日午前で、保護者様に療育整体で心身をリフレッシュしてもらう時間を作ることで、お子さんとの関係作りにより良い効果を狙っていく計画を立てていきます。
3	スタッフが継続的に専門の学びを進めています。	療育整体の自律神経にアプローチする施術を習得しています。	今後は事業所内でスタッフ同士への施術で互いの身体を整えて療育に向かえる心身づくりをおこなっていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援効果の客観的な評価(数値・データ化)がまだ十分ではありません。	ピフォーアフターでの成長の様子に科学的な裏付けがないことです。	脳波測定器の購入を考えています。
2	専門的支援(療育整体・原始反射統合等)の内容が、保護者様・関係機関に十分伝わりきれていないことです。	保護者様への支援の取り組みが一部のご家庭(家族イベントに参加された方)に留まっています。	半年毎におこなう面談や送迎時にワンポイントでお伝えしていきます。
3	事業所自体の構造(二階)に危険のリスクが大きいです。	送迎時や来所時に階段の昇降が必要となり、特に複数児童対応時や職員が単独で見守りを行っている状況において、安全面での配慮がより求められる環境となっています。また、放課後等デイサービスにおいて他事業所と連携した送迎時には、車内に他児童が乗車している状況下で職員がその場を離れることが難しく、児童の受け渡しを1階で行う必要が生じるなど、安全確保と運営面の両立に課題があります。	階段昇降時の安全確保を最優先とし、以下の取り組みを進めていきます。 ・送迎時の受け渡し方法のルール化(職員配置や動線の明確化) ・職員間での役割分担の徹底(見守り・対応の分離) ・保護者様への協力依頼の継続(児童発達支援における付き添いを保護者様送迎に限り放デイでも依頼) ・階段利用時の安全対策の強化(手すり使用の徹底、声かけ、見守り強化) また、必要に応じて人的配置や運用方法の見直しを行い、安全性の向上と円滑な支援提供の両立を図っていきます。